

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成29年6月13日
【四半期会計期間】	第27期第3四半期（自平成29年2月1日至平成29年4月30日）
【会社名】	株式会社アルチザネットワークス
【英訳名】	Artiza Networks, Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 床次 隆志
【本店の所在の場所】	東京都立川市曙町二丁目36番2号
【電話番号】	042(529)3494
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理本部長 清水 政人
【最寄りの連絡場所】	東京都立川市曙町二丁目36番2号
【電話番号】	042(529)3494
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理本部長 清水 政人
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第26期 第3四半期連結 累計期間	第27期 第3四半期連結 累計期間	第26期
会計期間	自 平成27年 8月1日 至 平成28年 4月30日	自 平成28年 8月1日 至 平成29年 4月30日	自 平成27年 8月1日 至 平成28年 7月31日
売上高 (千円)	1,873,180	1,283,814	2,249,790
経常利益又は経常損失 ( ) (千円)	471,903	113,613	347,646
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益又は親会社株主 に帰属する四半期純損失 ( ) (千円)	320,800	160,916	221,134
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	210,425	86,827	179,740
純資産額 (千円)	4,387,994	4,189,772	4,357,309
総資産額 (千円)	4,930,534	4,654,872	4,645,375
1株当たり四半期(当期)純利益 金額又は1株当たり四半期純損失 金額 ( ) (円)	39.75	19.94	27.40
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	39.75	-	27.40
自己資本比率 (%)	89.0	90.0	93.8

回次	第26期 第3四半期連結 会計期間	第27期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自 平成28年 2月1日 至 平成28年 4月30日	自 平成29年 2月1日 至 平成29年 4月30日
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額( ) (円)	3.44	1.63

- (注) 1. 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には消費税等は含んでおりません。
3. 第27期第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績に関する説明

移動体通信分野では、LTEのサービスが世界各地で開始され、多種多様なモバイル端末の普及により、移動体通信の高速化・大容量化、サービス品質の向上に向けての研究開発及び設備投資が継続しております。国内においてはLTE-Advancedのサービスも普及し、既存のLTEのサービスに対して更なる高速化・大容量化が実現しております。また、LTE-Advancedへの研究開発投資も継続しつつ、第5世代（5G）通信方式の標準化への動きや、IoT（Internet of Things）を活用した新たなサービスの実現に向けての研究も行われております。海外におきましても、LTE-Advancedサービスが開始されており、更なる移動体通信の高速化が全世界で進行しております。

また、固定通信分野におきましては光ファイバを中心としたブロードバンドサービスが進展し、IP化に伴うサービスの融合化が加速しております。モバイル端末の普及による、ユーザートラフィックの増加に伴う、ネットワークの負荷低減に向けた投資や、ネットワークの仮想化へ向けての投資も行われ、通信インフラの更なる高速化・大容量化が求められております。

これらの技術や新サービスの導入に伴い、設備投資や研究開発投資の需要が見込まれる一方で、通信品質の問題や、事業者間による加入者獲得競争、サービスの低価格傾向は定着しており、通信事業者及び通信機器メーカーの投資意欲に関しましては、引き続き選別的な姿勢が継続されるものと予想されます。

このような状況の中、当社グループでは、以下の営業、マーケティング及び研究開発活動を行いました。

- ( ) LTE-Advancedに対応する製品の開発及び販売
- ( ) 欧州、中国、北米、韓国、中東等の海外市場におけるLTE-Advanced対応製品の販売及び市場開拓
- ( ) 5Gに対応する製品の開発
- ( ) LTEに対応する製品の保守及び販売
- ( ) 次世代ネットワーク及びネットワークセキュリティに対応した製品開発・商材開拓及び販売
- ( ) WiMAX2+に対応した製品開発及び販売
- ( ) 通信分野における新事業に向けたマーケティング及び研究開発

その結果、当第3四半期連結累計期間におけるセグメント別の売上高は以下のとおりとなりました。

(モバイルネットワークソリューション) 1,062,539千円(前年同期比37.3%減)

当セグメントの売上高は、1,062,539千円となりました。LTE-Advancedの研究開発用途向けテストソリューションの国内向け販売が、前年同期比で減少した結果によるものです。

(IPネットワークソリューション) 221,275千円(前年同期比23.5%増)

当セグメントの売上高は、221,275千円となりました。ネットワーク監視におけるパケットキャプチャツール「etherExtractor」の販売、イーサネットサービス向けのフィールドテスト用途の「サービステスタ」及びコアネットワークテストの販売が、前年同期比で増加いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間におきましては、売上高1,283,814千円(前年同期比31.5%減)、営業損失120,342千円(前年同期は営業利益468,439千円)、経常損失113,613千円(前年同期は経常利益471,903千円)、親会社株主に帰属する四半期純損失160,916千円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益320,800千円)となりました。

#### (2) 資産・負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は3,327,723千円であり、前連結会計年度末に比べ177,533千円減少いたしました。売掛金が141,680千円、商品及び製品が176,857千円減少したことが主な要因であります。

当第3四半期連結会計期間末における固定資産は1,327,149千円であり、前連結会計年度末に比べ187,030千円増加いたしました。工具、器具及び備品が173,469千円増加したことが主な要因であります。

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は453,179千円であり、前連結会計年度末に比べ176,936千円増加いたしました。買掛金が117,530千円、賞与引当金が34,858千円増加したことが主な要因であります。

当第3四半期連結会計期間末における純資産は4,189,772千円であり、前連結会計年度末に比べ167,537千円減少いたしました。親会社株主に帰属する四半期純損失160,916千円を計上したことが主な要因であります。

( 3 ) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

( 4 ) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発費の総額は、586,836千円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	38,000,000
計	38,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年4月30日)	提出日現在発行数 (株) (平成29年6月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	9,562,000	9,562,000	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数 100株
計	9,562,000	9,562,000	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成29年2月1日 ~ 平成29年4月30日	-	9,562,000	-	1,359,350	-	1,497,450

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成29年1月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成29年4月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,491,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,069,800	80,698	-
単元未満株式	普通株式 1,200	-	-
発行済株式総数	9,562,000	-	-
総株主の議決権	-	80,698	-

(注)「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が900株(議決権の数9個)含まれております。

【自己株式等】

平成29年4月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社アルチザネットワークス	東京都立川市曙町 2-36-2	1,491,000	-	1,491,000	15.59
計	-	1,491,000	-	1,491,000	15.59

2【役員の状況】

該当事項はありません。



## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成29年2月1日から平成29年4月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成28年8月1日から平成29年4月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年4月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,523,962	2,618,607
売掛金	490,977	349,296
有価証券	46,321	15,930
商品及び製品	317,400	140,542
仕掛品	4,112	12,707
原材料及び貯蔵品	36,787	84,751
その他	85,694	105,886
流動資産合計	3,505,256	3,327,723
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	15,888	14,526
車両運搬具(純額)	708	339
工具、器具及び備品(純額)	271,021	444,491
有形固定資産合計	287,617	459,357
無形固定資産		
投資その他の資産	18,153	17,742
投資有価証券	603,774	603,956
その他	230,573	246,093
投資その他の資産合計	834,348	850,050
固定資産合計	1,140,119	1,327,149
資産合計	4,645,375	4,654,872
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	144,040	261,571
未払法人税等	-	46
賞与引当金	27,828	62,686
その他	104,374	128,875
流動負債合計	276,243	453,179
固定負債		
資産除去債務	11,822	11,920
固定負債合計	11,822	11,920
負債合計	288,065	465,100
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,359,350	1,359,350
資本剰余金	1,503,745	1,503,745
利益剰余金	2,162,425	1,920,799
自己株式	505,530	505,530
株主資本合計	4,519,990	4,278,363
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	168,064	95,566
為替換算調整勘定	5,383	6,975
その他の包括利益累計額合計	162,680	88,591
純資産合計	4,357,309	4,189,772
負債純資産合計	4,645,375	4,654,872

( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年8月1日 至平成28年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年8月1日 至平成29年4月30日)
売上高	1,873,180	1,283,814
売上原価	445,362	369,680
売上総利益	1,427,818	914,134
販売費及び一般管理費	959,378	1,034,476
営業利益又は営業損失( )	468,439	120,342
営業外収益		
受取利息及び配当金	15,880	4,282
為替差益	-	2,230
その他	-	275
営業外収益合計	15,880	6,788
営業外費用		
支払利息	185	60
為替差損	11,914	-
消費税差額	35	-
その他	282	-
営業外費用合計	12,417	60
経常利益又は経常損失( )	471,903	113,613
特別利益		
固定資産売却益	-	212
新株予約権戻入益	270	-
特別利益合計	270	212
特別損失		
投資有価証券評価損	-	74,219
特別損失合計	-	74,219
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失( )	472,173	187,620
法人税、住民税及び事業税	170,000	2,499
法人税等調整額	18,627	29,202
法人税等合計	151,372	26,703
四半期純利益又は四半期純損失( )	320,800	160,916
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失( )	320,800	160,916

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年8月1日 至平成28年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年8月1日 至平成29年4月30日)
四半期純利益又は四半期純損失( )	320,800	160,916
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	102,486	72,497
為替換算調整勘定	7,888	1,592
その他の包括利益合計	110,375	74,089
四半期包括利益	210,425	86,827
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	210,425	86,827
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年8月1日 至平成28年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年8月1日 至平成29年4月30日)
減価償却費	74,429千円	114,214千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成27年8月1日至平成28年4月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年10月28日 定時株主総会	普通株式	80,710	10.00	平成27年7月31日	平成27年10月29日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自平成28年8月1日至平成29年4月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年10月27日 定時株主総会	普通株式	80,710	10.00	平成28年7月31日	平成28年10月28日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成27年8月1日至平成28年4月30日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		四半期連結損益計算書 計上額(注)
	モバイル ネットワーク ソリューション	IP ネットワーク ソリューション	
売上高			
外部顧客への売上高	1,694,037	179,142	1,873,180
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-
計	1,694,037	179,142	1,873,180
セグメント利益又は損失( )	654,907	186,467	468,439

(注)セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第3四半期連結累計期間(自平成28年8月1日至平成29年4月30日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		四半期連結損益計算書 計上額(注)
	モバイル ネットワーク ソリューション	IP ネットワーク ソリューション	
売上高			
外部顧客への売上高	1,062,539	221,275	1,283,814
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-
計	1,062,539	221,275	1,283,814
セグメント利益又は損失( )	117,452	237,795	120,342

(注)セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年8月1日 至平成28年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年8月1日 至平成29年4月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり 四半期純損失金額( )	39円75銭	19円94銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は親 会社株主に帰属する四半期純損失金額( ) (千円)	320,800	160,916
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純 利益金額又は親会社株主に帰属する四半期純損 失金額( )(千円)	320,800	160,916
普通株式の期中平均株式数(株)	8,071,000	8,071,000
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	39円75銭	-
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額 (千円)	-	-
普通株式増加数(株)	133	-
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当 たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株 式で、前連結会計年度末から重要な変動があったも のの概要	-	-

(注) 当第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年6月9日

株式会社アルチザネットワークス

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 佐々田 博信 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 茂見 憲治郎 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アルチザネットワークスの平成28年8月1日から平成29年7月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成29年2月1日から平成29年4月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成28年8月1日から平成29年4月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アルチザネットワークス及び連結子会社の平成29年4月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。